

放射線科学基盤機構シンポジウム

“核医学セラノスティクス：基盤技術から臨床応用まで/

Theranostics from radioisotope production technology to clinical application”

日 時：令和3年3月18日（木）

場 所：オンライン開催（開催拠点：阪大吹田 RI センター）

*****プログラム*****

開会の挨拶（9:00-9:05） 小川哲生 機構長

Zoom 注意点説明（9:05-9:10）

プレナリーセッション（9:10-10:10） 座長：伊藤 浩（福島県立医大）

深瀬 浩一（阪大院理） 阪大における α 線核医学治療法の開発
金井 好克（阪大院医） がん細胞アミノ酸トランスポーターの治療標的としての展開

～ショートブレイク（10:10-10:25）～

RI 製造分離セッション（10:25-11:55） 座長：塚田和明（JAEA）

永津 弘太郎（QST 放医研） Ra-226 標的を用いた Ac-225 製造
白崎 謙次（東北大金研） U-233/Th-229 の分離回収と Ac-225 供給状況
福田 光宏（阪大 RCNP） TRIUMF からの Ac-225 輸入と RCNP における At-211 製造計画
羽場 宏光（理研仁科） 理研における At-211 の製造分離状況と将来計画
鷲山 幸信（福島県立医大） 福島県立医大における At-211 製造と分離精製

～昼食（11:50-13:00）～

核医学（化学・薬学系）セッション（13:00-14:30） 座長：樺山一哉（阪大院理）

小川 美香子（北大薬） 光免疫治療の経験から α 線核医学治療への展開
上原 知也（千葉大薬） α 線治療薬の生体内安定性と薬物動態の最適化
眞鍋 史乃（星薬科大） 211At 化学種と抗体付加反応
渡辺 茂樹（QST 高崎） At-211 の分離精製と標識法の開発
白神 宜史（阪大 IRS） α 線核医学治療における創薬化学と非臨床試験

～ショートブレイク（14:30-14:45）～

核医学（治療）セッション（14:45-15:45） 座長：東 達也（QST 放医研）

吉井 幸恵（QST 放医研） 悪性脳腫瘍に対する Cu-64 ATSM 医師主導治験
稲木 杏吏（金沢大核医学） 小児神経芽腫に対する I-131 MIBG 医師主導治験
疋田 隼人（阪大消化器内科） 膵臓がんに対する LAT1 阻害薬を用いた医師主導治験
渡部 直史（阪大核医学） 難治性分化型甲状腺癌に対する At-211 NaAt 医師主導治験

～ショートブレイク（15:45-16:00）～

特別セッション（16:00-16:50） 座長：巽 光朗（阪大院医）

Frederik（デュッセルドルフ大） FAPI-PET imaging and future perspective in theranostics
Lars Giesel

閉会の挨拶（16:50-16:55） 篠原 厚 副機構長